

鬼	北上市立	館
だ	の	り
第12号		



**東北旅行先にて鬼剣舞を体験
調布市・桐朋女子中学校**

桐朋中学校では、修学旅行のあり方を、子どもたちの自主研修の場ととらえて、それぞれの自主性にまかせた旅行を実施してきています。

平成11年7月8日、70余名の女子中学生（3年生）が鬼の館を訪れ、郷土に伝承される“鬼剣舞”を保存会の指導のもとで熱心に実地体験しました。

北上市立鬼の館 平成12年度の催し



◎展示会

第12回企画展◆故斎藤博之“鬼二百態展”

4月29日(土)～6月11日(日)

人物や馬・河童画を独特の作風で描き、斎藤芸術を確立した故斎藤博之氏が好んで描いたとされる“鬼絵”や“鬼絵本の挿図原画”220点を入れ替え展示しながら公開します。

故人が心に描いていた“鬼”に対する精神感や人間と“鬼”とのかかわりを考えます。

4月29日(土)／午前11時開場

4月29日(土)／展示作品解説会 午後1時～
30日(日)／展示作品解説会 午前11時～

市民制作彫刻展

6月20日(火)～8月20日(日)

一般募集によって、趣味で仏像や仮面制作に取り組んでいる北上市内に在住する方々の作品をご紹介します。

收藏資料展

8月29日(火)～9月24日(日)

寄託コレクション資料や寄贈資料及び購入資料など、当館收藏資料を中心として日本の鬼・世界の鬼を紹介します。

市民の心のたからもの展

12月15日(金)～平成13年2月25日(日)

誰にでも心の思い出があります。その思い出に付随した愛蔵の品々を借用して紹介します。

鬼の館を市民の方々に身近に活用していただくための特別企画です。

第13回企画展◆オニ・鉱山・鍛冶(仮称)

10月7日(土)～11月26日(日)

東北みちのくは、古くから鉱山資源に恵まれた地域として知られ、開発されてきました。

鉱山開発や金属精錬にたずさわるものの中に“鬼”が描かれている鍛冶屋神があります。オニと鉱山の関係やオニと鍛冶・精錬の関係を知ら

ために、民俗分野やこれまで考古分野で調査された県内の各資料を集め、展示公開します。



平成12年度收藏資料展

平成13年3月6日(火)～5月5日(土)

一年を通じて鬼の館が収集した寄託資料や寄贈資料並びに購入資料などのほか当館所蔵の未公開資料などを展示紹介します。

◎民俗芸能紹介

第7回大乘神楽大会

6月11日(日)10時開演

鬼の館特設会場

市内各地に伝承されている大乘神楽保存会による年に一度の公演です。特別出演として胆沢町に伝承される山伏系前谷地神楽をお招きする予定です。

◎学級・講座

鬼学講座

全8回講座 鬼の源流を求めてをテーマに毎年開講している成人向けの講座です。今年度は鬼とされたエミシ民族に焦点をあてます。地域を問わず広域的範囲で募集します。



鬼っこわんぱく講座

全10回講座 創作活動と体験活動から構成されます。5月5日は子どもの日わくわくイベントで、参加自由。ほかは申し込み制です。



鬼の館芸能公演

4月から11月・3月の第4日曜日・連休公演(5/6)・お盆公演(8/13)の11回公演です。《出演団体》鬼柳・岩崎・滑田・口内の各保存会のほか、お盆公演には都鳥鹿踊り保存会(胆沢町)を紹介します。毎回5～7演目を演じ、くわしい解説付きです。鑑賞は無料。



滑田鬼剣舞

平成12年度 催しものカレンダー

展示	講座 ☆鬼っこわんぱく講座 ★鬼学講座	芸能公演	休館日
○16 平成11年度 収蔵資料展		◇鬼剣舞公演 ◇23	3 10 17 24
○29 第12回企画展 故斎藤博之 鬼二百態展	☆5 子どもの日わくわくイベント ★21 エミシ民族は	◇6 ◇28	8 22 9 29 10 15
○11		なぜ鬼か ◆11 大乘神楽大会	5 12 19 26
○20 特別展 市民制作彫刻展	★24 よみがえ る北の鬼 ☆9 鬼瓦をつ くろう ☆30~8/1 た悪路王 合宿	◇25 ◇23	3 24 10 31 17 21
○20 特別展 収蔵資料展	★26 エミシから見た鬼 ☆3 鬼張り子 ☆10 彩色	◇13 ◇27 ◇24	7 14 21 28 4 25 11 26 18 19
○24 第13回企画展 オニ・鉾山・鍛冶 (仮称)	★27~28 移動研修	◇22	2 23 10 30 11 16
○26	★23 奥六郡の 覇者 安倍氏	◇26	6 27 7 28 13 29 20 30
○15 特別展 市民の心の たからもの展	☆7 ☆14 ☆21 ☆28 鬼剣舞体験		1 26 4 28 11 29 18 30 25 31
○26 発表会 福豆節分会	☆4		1 10 2 15 3 22 4 29 9
○25 6 特別展 平成12年度 収蔵資料展 (~5/5)	発表会 福豆節分会		5 26 13 14 19
		◇25	5 26 12 19 21

※日程は変更することがありますので、お出かけ前に確認されることをおすすめいたします。

新資料から

鬼絵・鬼絵本原画

作者：斎藤 博之氏（鎌倉市・故人）
寄贈：斎藤百合子氏（鎌倉市在住）

故斎藤博之氏は、帝国美術学校（現 武蔵野美術大学）において洋画を学びました。その後、徴兵で戦地に出兵し、感じるものがあり、兵士の様子を描いた人物画や馬の油彩画を描き、迫力ある作風を生み出し、斎藤芸術として知られています。

後に、水墨画・水彩画の分野を志し、絵本を出版するなどして絵本部門における文化賞や絵画賞

を受賞するなど脚光を浴びました。

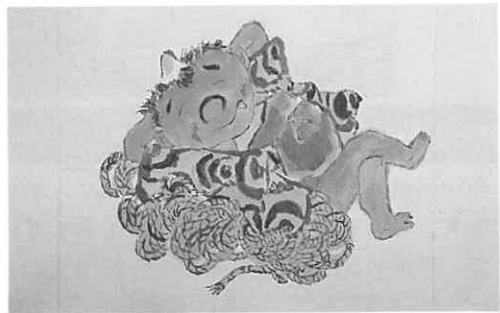
当館に寄贈していただいた資料は、鬼絵本の原画（水彩）8種157点のほか鬼絵（水墨・水彩画）60点・絵本・仮面など総計220点に及びました。

この資料は、平成12年度第12回企画展「故斎藤博之～鬼二百態展～」(4/29～6/11)にて展示紹介します。



▲絵本「鬼がら」原画

▶絵本
「おにの子こづな」
原画



▼絵本「なぞかけ鬼」原画



第12回企画展 故斎藤博之～鬼二百態展～

平成12年 4月29日(土)～6月11日(日)

4月29日 午前11時 開場

展示作品解説：斎藤百合子婦人

4月29日：午後1時～午後2時

30日：午前11時～午後3時

平成11年度 受 入 資 料

○寄贈資料

鬼絵本原画ほか220点（鎌倉市・斎藤百合子氏）・鬼図書資料472冊（盛岡市・力丸光雄氏）・民芸うちわ1点（北上市・小高由美子氏）・毛采2点（栗駒町・羽川安道氏）・権杖頭1点（北上市・伊藤悦夫氏）・鬼像1点（北上市・馬峰チヨミ）・ドクロ水墨掛け図1点（東和町・佐藤圭子氏）・稲荷明神掛け図1点（東和町・佐藤圭子氏）・アンガマ面2点（石垣島・八重山タートルズクラブ）・日本刀1点（北上市・小原初夫氏）・鬼瓦1点（栃木市・佐藤三郎氏）・壱岐の鬼風2点（北上市・菅野照男氏）・壱岐の鬼風7点（長崎県・平尾明丈氏）・鬼剣舞面2点（北上市・佐藤耕作氏）

○購入資料

錦絵「奥州高館大合戦」・「和漢百物語」・「頼光大江山入之図」・「義経主従安宅新関越之図」・「岩戸神楽ノ起頭」・「義経 奥州平泉高館で親子対面之図」・「八幡太郎義家之図」・壱岐の鬼風・民芸うちわ・台湾獅子獸頭牌・京劇張飛仮面

○寄託資料

大津絵 藤娘と鬼の念仏・大津絵手ぬぐい・こけし（北上市・針生泰彦氏）

NEWS

鬼ZZプレイミュージアム多彩に実施

参加体験型の展示や五感を働かせて行う創作活動などをねらいとした「全国子どもプラン～親しむ博物館づくり事業～」が文部省の委託をうけて展開されました。

当館では、①鬼に変身できる子ども諸具の整備活用、②鬼面づくり活動、③館内鬼めぐりのためのシート活用、④鬼の捕獲器「鬼ど」の製作、⑤鬼百科CD-ROMの活用など5コースを設定し、それぞれ整備し活用をはかりました。なかでも鬼面（剣舞面・カッパ面）づくりは、好評をはくし、館内をはじめ養護施設や小学校の課外活動、子ども会活動など館外活動にも波及し、担当者が悲鳴をあげる程の盛況でした。この試みは、博物館の新しい方向性を示すものとして注目される一方、来館者が気軽に博物館を活用するための意識づけとして位置付けられています。



第6回全国鬼サミット 上野市で開催

平成11年10月24日～25日の両日、三重県上野市において、第6回全国鬼サミットが上野天神祭に合わせて開催されました。

毎年一回全国の“鬼”にかかわりをもつ自治体や団体が一同に会して地域の文化や物産開発などあらゆる情報の提供をとおして、各地域の活性化とネットワークの確立をはかろうとするもので、今年は16の自治体に参加し、上野市のだんじり会館を会場として話合われました。

サミットでは、「ニッポン全国おいらのまちの鬼自慢」を基本テーマとして、いかに情報発信を展開していくかについて討論され、北上市は鬼の館館長門屋光昭より、みちのく芸能まつりと鬼剣舞・日本鬼ZZフェスティバル・鬼百科CD-ROM開発、親しむ博物館づくり事業などの情報を紹介しました。その後、各地の物産を囲み、情報交流会と天神祭での宵宮鬼行列などを鑑賞し幕をとじました。次回のサミットは北海道登別市で開催されます。



できごと Oni Museum

～新聞の見出しより～

H11. 下半期

和紙面など80点余を公開

[岩手日日10/10]

和紙面飾・澤藤範次郎の仕事

[岩手日日10/13]

地元の風習見つけ直す

鬼にもらった地域の活力

[日本経済新聞10/17]

来て見て遊べる施設に変わります

[朝日新聞10/19]

「鬼ど」づくりの参加者を募集

[岩手日日10/20]

「鬼ど」の製作を開始

[岩手日日10/23]

鬼さんこちら一捕まえちゃえ

[岩手日報10/28]

どんな鬼、捕まる？[朝日新聞10/29]

これで鬼をつかまえるぞ！

[河北新報11/10]

鬼瓦の野焼きに挑戦[岩手日日11/11]

「鼓童」迎え交流公演

[岩手日日11/13]

鬼の“捕獲器”お目見え

[岩手日日11/13]

鬼剣舞の“出前授業”

[読売新聞11/21]

鬼面作りを出前指導[岩手日日11/22]

“オニさん”に追い出される？

上半期入館者実績

[岩手日日11/26]

“秘藏品”提供して！

[岩手日日11/29]

“心の宝”約70点展示へ

[岩手日日12/11]

鬼の館で「市民の宝物展」

[岩手日日12/20]

鬼の館 市民の宝物展

[街・きたかみ99/12月号]

見て触れて感じる博物館へ

鬼ZZ・プレイミュージアム

[岩手日日1/1]

市民の宝物を一堂に [岩手日報1/9]

「鬼っこわんぱく講座」の子供たち

[岩手日日1/14]

鬼にあったよ!! [少年少女新聞1/30]

鬼の館で「福豆節分会」

[岩手日日1/31]

“福豆に幸運あり” [岩手日日2/27]

鬼も内 鬼剣舞披露 [岩手日報2/28]

特訓の鬼剣舞を披露 [岩手日日2/10]

亡き夫の作品を有効に

[岩手日日2/17]

「鬼ZZ・プレイミュージアム」紹介

[岩手日日3/1]

未公開資料50点を公開

[岩手日日3/4]

鬼の資料を一般公開 [岩手日日3/6]

鬼の顔、表情豊かに [岩手日日3/9]

親しまれる博物館目指す

[岩手日日3/19]

鬼学ノート

鬼の精神像

～鬼本来の姿～

主任学芸員 鈴木明美

1 日本民族の信仰

地球への生命の誕生は、やがて地上への人類の誕生を派生させ、人類は、これまで数々の文化の形成と衰退とを繰り返しながら現在に至ってきています。

このような文化は、時間の経過と時代の移り変わりとともに、その時々にはきた人々の精神感や生活感を媒体として、生まれ営まれてきた風習や習俗に影響を及ぼしながら見直され、形づくられて確立されてきました。

農耕社会がいまだ定着しなかった旧石器から縄文時代後半にかけての生活観は、狩猟・採集社会としての生活であり、日々の食糧を求めての移動や定住の生活が常で、天候や気候によって左右される暮らしであったため、必然的にそこには繁栄のシンボルである“太陽”を崇める精神感が生まれ、原始宗教としての太陽信仰が確立されました。いわゆる万物の反映は、太陽にあるとされるもので、この時代全体を通じて形づくられるようになりました。

太陽信仰は、日本民族の基本理念となり、後世に伝達され、日本列島全体に波及し、広がった稲作文化を中心とした農耕社会での民衆の精神感にも引き継がれることとなり、“太陽神”として祀られ、地域の習俗儀礼の象徴として確立形成されていくこととなります。

昨今でも当習俗を継承したものとして、神社や路傍に祀られた「道祖神」を見ることができます。道祖神信仰は、繁栄のシンボルである“太陽神”を昇華し、偶像化した姿であり、村境や国境の境界に祀られ、村や国の繁栄を祈念したもので、境界から村の領内に入り込む邪悪なものを排除するという“魔除け”の性格をも示すものです。また、神社の祭壇の中央に祀られる大きな“鏡”も太陽神を祀りあげたものと解釈されます。

一方、農作業でみれば、田植えの際に男性が畦

道で笛や小太鼓でもってはやしたてながら田植えをする早乙女と掛け合い漫才を行う風習、田植え囃し歌もまた、太陽神に刺激を与え、奮い立たせて繁栄、すなわち豊饒を約束させる行為であり、一種の予祝的な行為であると考えられます。

2 異文化思想との融合

文化の形成過程には、古来からの独自伝統文化の継承的発達と交易を通じて異文化を取り込み、地域習俗に沿うよう転化融合して形成される発展的形態の2様があります。

日本民族は、後者の発展形態に類し、弥生時代以降、あらゆる外来文化を吸収し、民族気質や生活形態の風習に沿うように転化し、融合させて発展してきました。このため日本民族を指す言葉として“日本民族は猿まねが上手で自国の文化をもたない民族”だとよく表現されます。しかし、近代以前までの我国民族は、ひとつの文化を取り入れても、それを独自の地域文化に沿うように転化させて営む民族であったように思われます。戦後は、この民族性もくずれ、外来文化をそのまま受け入れるような独自性の欠けた民族風潮となり、独自文化を大切にしない民族に成り下がっているのが現状です。

“鬼”思想も例外ではなく、仏教や古代中国思想の陰陽道とともに外来文化のひとつであり、古来から我国に根差していたものではありません。

この“鬼”思想は、中国での正月行事である追儺（ついな）習俗儀礼のひとつであり、仏教や陰陽思想の伝播と前後して我国に伝わり、古来から日本民族の精神感として形成され確立されていた“神”を習俗儀礼の頂点とする精神信仰と融合して公家や貴族の上流階級層に受け入れられることとなります。結果、追儺習俗は、宮廷の年中行事として定着し、やがては社寺仏閣においても執り行われるようになり普及することとなります。

しかし、追儺習俗が有する基本的精神感とは、善鬼が悪鬼を祓う（実際は方相氏の転化）というものであるため、後にこの精神感が転化され、善鬼は“神”として祀られ、一方悪鬼は人間に害を与える魔性のものとして分化されて考えられるようになります。これらの考えは仏教に引用され、経義となって布教活動の一端を担うこととなります。

すなわち善鬼は、“神”であり“仏”として分化

し、悪鬼は、邪悪な陰湿なもので、地獄の獄卒として表現されることとなります。

10世紀に平安時代中期以降の日本浄土教の総帥といわれる恵信僧都源信(942~1017)によって説かれた「往生要集」、厭離穢土(おんりえど)の章には、八つの地獄があり、そこでは獄卒が亡者をいたぶる陰惨な様子が地獄絵として、まことしやかに表現されています。

この経典をもとに人間としての最終解説の場を浄土とする仏教の布教活動は大成することとなります。以後、「鬼」は仏教によって歪められた姿で、悪の元凶として退治される側に位置付けされ、恐れられ怖がられる性格を有するものとなります。

また、仏教の説法は一般民衆の家庭内の“しつけ”に引用されるようになり“鬼”は完全に歪められた姿のままで、我々の脳裏の奥底に秘められて今日まで続いてきています。

3 二つの顔

日本書紀や吾妻鏡などの文献を見ると古来、オニの文字には「於爾(おに)」が当てられ、さらに「隠(おん・おに)」に変化し、現在の鬼の文字の変遷をたどっています。この事象をみると確かに“鬼”は、その時々によって捉え方が変化していることが伺い知れます。

広辞苑や大漢語林などの辞書で“鬼”を読み取ると、①死者の魂・幽魂・亡霊・神として祀られた靈魂(人神・鬼神)、②想像上の動物、③残忍なも・非道なもの、④いかめしいもの・大きなものの形容など各種、意味付けがなされています。

また、私たちが活動する生活空間を改めて見直すと、そこには“鬼”と密接なつながりをもって生活が営まれていることに気づきます。言葉・年中行事・習俗儀礼・芸能・地名・民間信仰などさまざまな事象に“鬼”は登場し活躍しています。

怖く恐ろしいとされ、人間に嫌われる存在の鬼が私たちの生活領域のなかに何故、こうも堂々と溶け込んで見られるのであろうか。誰しもが疑問に感じる視点であると思います。

前述した身近にまわりつく民俗事例での鬼行事や各種辞書で意味付けする“鬼”の姿から推察すると“鬼”とは怖く恐ろしい一面を有すばかりではなく、もう一つの側面があるのではないかと考えることができます。

例えば、当地に伝承される民俗芸能、“鬼剣舞”は、その由来などを探ると律令政府から制度に組みせず従わない“まつろわぬ民”として鬼とされ、侵略を受け滅び去った武将たちの亡霊が、毎夜暴れまわることから困り果てた人々が亡霊退散・亡魂成仏の祈禱を行ったところ、満願の日に、一匹の猿が現れて亡霊たちの中にはいり、滑稽な踊りを踊ったところ、しだいに亡霊たちも踊りはじめ、やがて亡霊たちが静かになったとされる。この踊りが鬼剣舞の踊りの由来とされるもので、県内に伝承される念仏剣舞もまた同様の由来からなる。

また、青森県弘前市の撫牛子(ないじょうし)にある八幡宮や三和の日吉神社・金木町の八幡宮・板柳町の八坂神社・五所川原市の熊野宮ほかでは、神社の鳥居に“鬼”を祀る風習がみられます。地域の人々はこの“鬼”を「鬼っこ」と親しみを込めて呼び、鳥居をくぐり神社への参拝をしています。

このほかにも日本全国には、数多くの“鬼”たちが君臨し、重要な役割をなしている事象が数多く見受けられますが、これらは、前述したように怖く恐ろしい一面のほかにもう一つの精神像があるためです。

この2列から“鬼”の姿を推察すれば、鬼は私たちが邪悪なものや魔物から守ってくれる精神像を持ち合わせていることが理解できます。併せて鬼の守護的役割を考えることによって我々の身近にまわりつく鬼の位置付けが可能となります。

鬼剣舞の鬼は、暴れまわり亡霊であり、怖い存在であったにもかかわらず、大日如来の化身とされる“猿”によって浄化され、人間を擁護する側にまわった鬼で、悪霊退散の踊りとされる理由付けができ、神社に祀られる“鬼っこ”は、いかつく怖い形相で睨みをきかせ、神社や参拝に来る人々に危害を加えるような邪悪なものや魔物を排除して人々や神社ら守るという守護的役割を担うものと解釈することで、祀られ親しまれる理由が成り立ちます。

いわゆる日本の鬼、本来の姿は、一つの身体に怖く恐ろしい面と優しい面を兼ね備えた二面性をもつものが“鬼”であると解釈されます。

この意味からすれば、人間自体“鬼”の心を有したものとみることができます。

鬼の里だより

- 10/3 鬼学講座 宗教に潜む鬼 梅原廉氏
- 10 第11回企画展 鬼をつくる(～11/23)
- 21 鬼学講座移動研修(山形～10/22)
- 24 第6回全国鬼サミット(～10/25)
- 24 鬼剣舞公演 飯豊鬼剣舞
- 30 鬼っこわんぱく講座 鬼の館合宿(～10/31)
- 11/21 鬼剣舞公演 鬼柳鬼剣舞
- 23 鬼学講座 岩手の毘沙門信仰 大矢邦宣氏
- 27 収蔵庫燻蒸業務(～11/30)
- 12/12 特別展 市民の心のたからもの展(～2/20)

- 1/9 鬼学講座 正月行事にかかわる鬼 斎藤寿胤氏
- 10 鬼っこわんぱく講座 剣舞体験
- 16 鬼っこわんぱく講座 剣舞体験
- 23 鬼っこわんぱく講座 剣舞体験
- 30 鬼っこわんぱく講座 剣舞体験
- 2/5 鬼っこわんぱく講座 剣舞体験
- 6 福豆節分会・わんぱく講座発表会
- 13 鬼学講座 研究発表会・閉講式
- 27 鬼の館協議会 事業・予算審議
- 3/5 特別展 収蔵資料展(～4/16)
- 23 鬼の館芸能公演 谷地鬼剣舞

入館状況

H11. 4. 1～H12. 3. 31 開館日数293日 単位：人

	小中学生	高校生	一般	計
有料	2,177	200	22,669	25,046
無料	1,503	314	8,706	10,523
計	3,680	514	31,375	35,569

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
 なお、入館は午後4時30分まで。

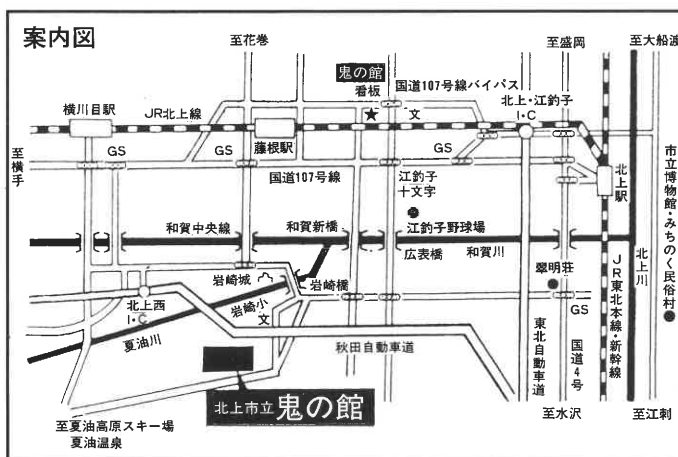
- 休館日**
- ・月曜日(国民の祝日の場合は開館)
 - ・国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は開館)
 - ・上記開館の振替日
 - ・館内整理日(11月27日～30日)
 - ・12月1日 臨時休館
 - ・12月28日～1月4日まで

- 入館料**
- 一般 300円(250円)
 - 高校生 200円(150円)
 - 小中学生 150円(100円)

()内は20人以上の団体料金。

市内の学校の児童生徒が学習活動で申請により利用するとき、毎月第2・4土曜日に利用するときに入館料が免除になります。

- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月～10月)「鬼の館前」下車。
 - ・JR北上駅より車で20分。東北自動車道北上江釣子I・C、秋田自動車道北上西I・Cからともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第12号 2000. 3. 31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
 TEL 0197 (73) 8488 FAX 0197 (73) 8508